

## 能登半島周辺の震源断層モデル

石山達也（東京大学地震研究所）

ポイント：

- 国交省の断層モデルは、最大クラスの津波を発生させる断層モデルを設定。ただし能登半島西部の断層は含まれていない
- 日本海PJの断層モデルは正断層の再活動に着目し、複数セグメントからなる
- とともに日本海拡大に伴う地殻の改変・形成を念頭に置き、D90 およびレオロジーを考慮して推定した地震発生層厚さに基づく
- 余震分布と断層モデルの形状は一部整合せず、海陸統合観測の重要性や、MCS における断層深部形状推定の信頼性を向上させる必要性を示唆

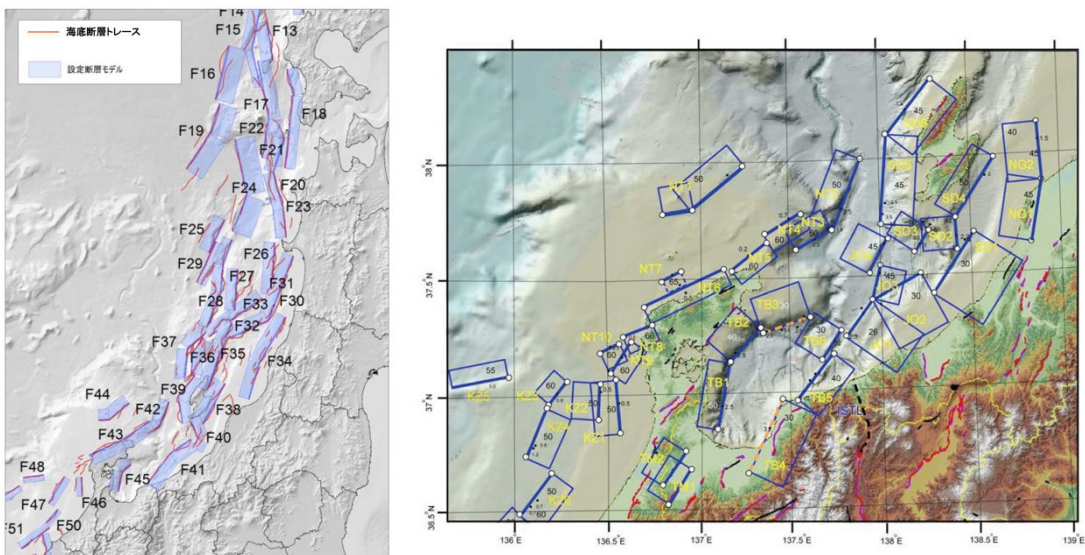


図1 (左) 国交省 日本海における大規模地震に関する調査検討会 (2014) による断層モデル。

(右) 日本海地震・津波調査プロジェクトによる断層モデル (佐藤ほか, 2020)

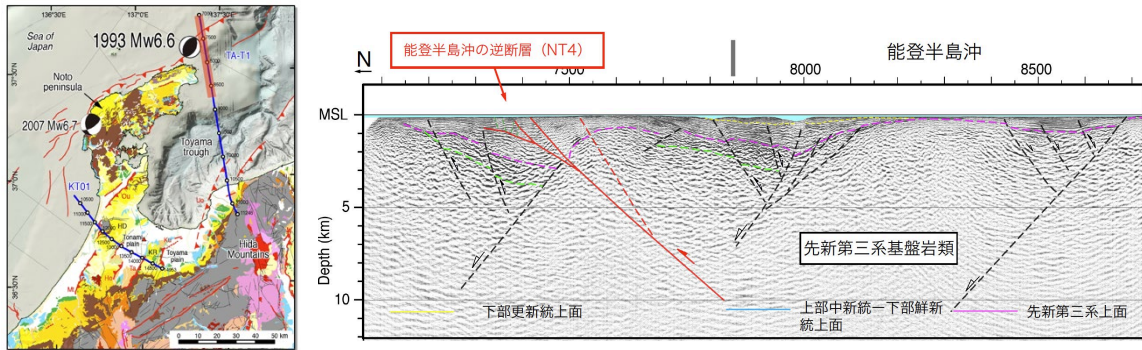


図2 日本海地震・津波調査プロジェクトで取得した MCS 断面の解釈 (Ishiyama+, 2017)